

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 ラ・ポールおとくに ケアサービス	代表者	米田 真澄	法人・ 事業所 の特徴	「自分で決める毎日の暮らし」を大切に、「通い」ではそれぞれの事情をかんがみ、夕食を食べて帰る人や入浴を楽しみに来る人など様々です。また、服薬確認で毎日「訪問」をする人もいます。小規模ならではの小回りの利くサービスを心掛け、一人一人に合ったケアプランと同時に状況に合わせたプランを提案し、家族と連絡を取りながら、地域のマンパワーにも助けをもらい、事業を進めています。
事業所名	ラポール おとくに長岡京	管理者	西 順子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	人	人	1人	1人	1人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価は常勤職員は必ず参加する。今後も、「今、出来ること」を見極め、支援をする。	事業所自己評価は、その日出勤の職員と常勤職員と4日にわたり、行なった。		今後も事業所自己評価は、常勤職員とパート職員で継続して行なっていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節の花を植えることは継続し、イベントがある時は駐車場の花壇に掲示し、近隣の方に情報を発信する。	駐車場に南側と北側から見える掲示板を設置し、イベントや情報の提供ができるようにした。	運営推進会議の会場から利用者の様子が見えなくなったので、小規模入口から来客（外部者）に入ってもらえるよう工夫が必要。また、入り口は開いているが、安全面はどうなのか。	運営推進会議の入り口を小規模の入り口から入ってもらうように、貼り紙をし、利用者の様子を見ってもらうようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	自治会の組長会（毎月第二土曜）に参加し、事業所から地域に出向いて行くようにする。	自治会の組長会に継続的に参加し、自治会・なかよし会（老人会）と有効な関係を築けている。		自治会との関係が継続できるよう組長会の参加を継続し、更に良い関係になるよう努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	小規模でどのようなことをしているのか事業所だよりを配布する。	・事業所だよりを年始に関係各所に配布したが、各利用者の地域までは配布していない。 ・ハイツのサロンに参加した。		利用者の地域の民生委員と話す機会を作る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	民生委員や地域の方に運営推進会議に参加してもらえるよう声掛けを行う。	民生委員や地域の方、利用者家族に参加してもらうことができた。		事業所の取組みが分かりやすく伝わるよう、運営推進会議で報告をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	水害・地震の対策とマニュアルを見直し、作成する。	事業所、自治会参加で、平成31年3月22日に合同消防訓練を実施した。	エレベーターが停電で止まったら、車椅子の方はどうするのか？	車椅子の方で、階段を利用できない人の避難方法を消防訓練時にレクチャーしてもらう。

